



## 大人が「束になって」子どもと付き合う

H29. 11. 22 住小：坂井

前回は、学校でも家庭でも大人と子どもと一緒に楽しみたい、ということを書きました。よく教え、よく躡けるためにも、その子としっかりとつながるということです。

今回お伝えしたいことは、大勢の大人が、子どもの育ちを支える方向でつながる。そして、「束になって」子どもと付き合うということです。

どこの学校でも、「家庭と学校がしっかりとつながり、それぞれ役割を果たして子どもたちを育ててまいります」というフレーズを使います。住吉小学校でもそうです。では、このことがなぜ大切なのでしょう。3つの意義を考えてみました。

### 1 子ども理解が深まり、それぞれの指導や子育てに生きる

自分の立場（力）からは、子どもに関して限られた情報しか集めることができません。また、自分が子どもをどのように見るか、また、子どもが自分をどのように思っているかで、子どもに対する見方は決まってしまう。学校（家庭）とつながることで、別の角度からの情報を得るとともに様々な受け止め方を知り、子ども理解が深まります。それを、目の前の子どもへの関わり方に生かすことが可能となります。

### 2 子どもが安心できる

自分の周囲の大人が仲がよいほど、子どもが安心できる環境はありません。家庭や学校で、大人が仲良く過ごしている姿は、最高です。とはいうものの、意見の対立は起きることがあります。いつも笑顔でいることも難しいです。でも、そんなときには、子どもの顔を見て仲直り。そんなご家庭もあるのではないのでしょうか。このことを広げ、家族と学校職員が束になって子どもと付き合うことができるなら、子どもの安心感がどれほど大きいのでしょうか。

### 3 大人自身が学ぶ

よく、「学ぶことは変わること」といいます。学校の教育もご家庭での子育ても、慣れてくると「いつものやり方」で行われるかもしれません。それはそれで大切ですが、大人が子どものモデルであるなら、変わることも必要な場合があります。学校と家庭の大人同士の関わり合い（学校と家庭がつながること）は、そのきっかけを与えてくれます。


このように、家庭と学校が手を携えることは何よりの教育です。この環境を実現するために、学校では家庭訪問や個別懇談会を実施したり、諸行事や授業参観にご来校いただいたりしています。PTAの存在理由も、このところにあると私は考えています。

では、3つの意義を実現させるためには、学校（教職員）とご家庭（保護者の皆様）は、どのようになことに目を向けていけばよいのでしょうか。


## 1 かけがえのない存在として大切に思う

- ・子どもは、保護者の皆様にとっては、何物にも代えがたい「宝」です。子どもの教育に関わる私どもの仕事にとっても同様です。ですから、お子さんを育てていらっしゃる保護者の皆様は、私ども学校にとってはかけがえのない存在なのです。

## 2 通じ合う（顔を合わせる、連絡を取り合う、一緒に楽しむ）

- ・来週、個別懇談会（顔を合わせる）が行われます。また、日々連絡を取らせていただいています。PTAには、子ども・保護者・担任等と一緒に楽しむ活動がたくさんあります。
- ・先日は、5学年で餅つき大会が行われ、また、教養部主催の和太鼓集団による講演会・演奏会がありました。

## 3 関係を深め広げる

- ・様々な活動を通して、互いの関係が深まり広がります。先の「通じ合う」と重なります。当校では、様々なチャンネルで、多くの人から学校にお越しいただいております。今後も、地域の多くの皆様からご来校いただく機会を検討してまいります。
- ・先日、猿橋中学校の2年生が当校で職場体験をしました。また、当校ALT（英語指導助手）の妹さんがフィリピンから日本に来られ、子どもたちと触れ合ってくださいました。そして一昨日は、6年生が近隣の学校の英語の先生からへボン式のローマ字を習いました。3学期には、多くの外部指導者の皆様にお世話になり、全学年スキー授業（低学年はソリ）が行われます。よろしくお願いいたします。



教育も子育ても大事業です。一人の力だけで、あるいは学校単独や家庭だけで完結できるものではありません。関わる大人が一緒になって子どもに対していく（付き合っていく）ことがどれだけ大切であるのか、ますます強く思うようになってきました。

